富田林市文化財調査報告 58

中野遺跡

― 共同住宅の建設に伴う発掘調査報告（NN2015-1） ―

2016.03.31 富田林市教育委員会

1.はじめに(図1・2)

中野遺跡の遺跡範囲内で共同住宅の建設が計画されたことに伴う調査である。事前調査(2015年5月13日）で弥生土器とサヌカイト剥片を含む層と遺構を確認したため協議を行い、住宅本体の工事は遺構面への影響を避けることができたが、擁壁部分は工事深度が深く、本調査（2015年6月30日～7月24日）が必要となった。

中野遺跡は富田林市域の北中部にあり、石川西岸の中位段丘上に位置している。明治時代に石鏃が発見されたことで遺跡の存在が知られ、近年の調査の進展によって、弥生時代中期の集落跡・古代寺院に係る遺物(塔心礎・瓦)を中心に、旧石器時代から中世までの幅広い時代の遺構・遺物が発見されている。

今回の申請地は都市計画道路狭山河南線の北側に面している。この道路の整備に伴って、1987年から1989年にかけて大阪府教育委員会と富田林市教育委員会による調査(未報告)が実施され、ほぼ全面で遺構と弥生時代から中世にまたがる遺物が確認された。また、申請地の西側隣接地でも2007年に調査（未報告)が行われており、多数の遺構と中世を中心とする遺物が検出されている。

図1　調査位置

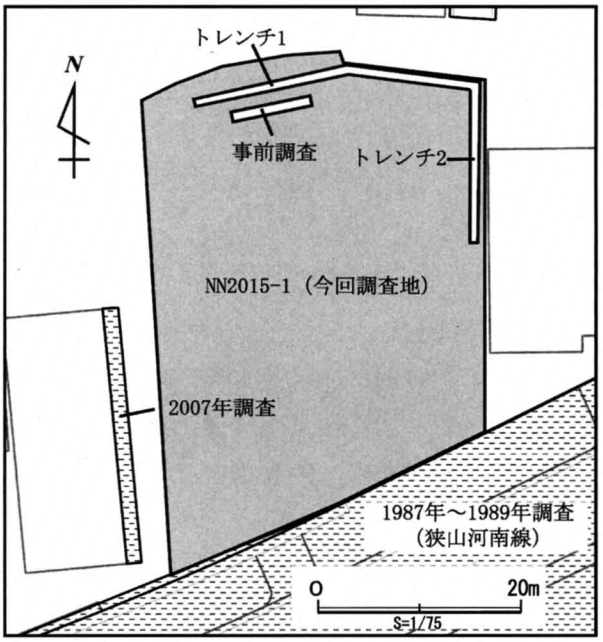

図2　トレンチ配置

2.調査の方法と基本層序(図2・3)

本調査では、擁壁予定地に総延長40m(トレンチ1：東西24m、トレンチ2：南北16m)×幅0.8mのL字型トレンチを設定した(図2)。Ⅲ層（包含層）上面まで重機で掘削し、包含層と遺構埋土は人力による掘削を行った。井戸など一部の深い遺構については、工事への影響を考慮し、GL-1.2mで掘削を中止した。

基本層序はⅠ層(現耕作土・床土)、Ⅱ層(灰色土・茶褐色土、中世耕作土層)、Ⅲ層(黒褐色土、弥生時代

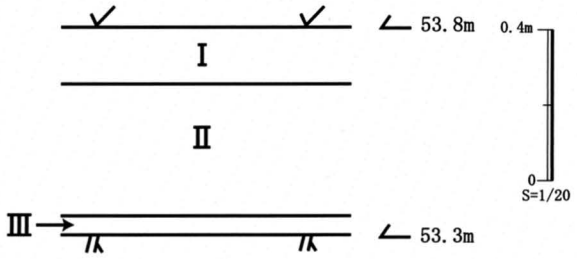

図3　基本層序

中期包含層)、地山である。

Ⅱ層は、弥生時代中期の土器やサヌカイト製石器・剥片を主とし、弥生時代後期の土器や須恵器、瓦、瓦器など各時代の遺物が混在している。Ⅲ層は遺構埋土や礫層(地山)上面に僅かに残存しているにとどまる。後世の耕作によって激しく削平されたと考えられる。出土遺物はわずかであった。

地山上面は北西から南東に向けてゆるやかに下降しており、トレンチ1西端ではT.P.53.6m、トレンチ2南端ではT.P.53.2mとなる。また、トレンチ1西端から5m地点で深さ5cmの落ち込みが存在する。トレンチ1西半の地山はシルト質細砂であるが、トレンチ1東半およびトレンチ2の地山は礫層であった。

3.遺構と遺物

今回の調査では、Ⅲ層上面で土坑1基(SK4)、地山面で土坑9基（SK1～3・5・7～11）・溝3条(SD1・3・4）・井戸1基(SE1)・ピット41基(SP1～14・16～32・34～43）・性格不明遺構1基（SX1）を検出した。SK6、SD2、SP15・33は遺構ではないと判断したため、図示していない。遺物は主に弥生時代中期の土器とサヌカイト製石器であるが、完形の土器は出土していない。

トレンチ1(図4・6)

SK1　西端に位置する土坑である。深さ0.6mで、断面観察でⅡ層上面から掘り込まれていることを確認した。備前焼の甕胴部や染付碗が出土しており、近世の遺構である。

SK2　西端より2.6m東に位置する土坑である。深さ0.7m、東西長は上端1.1m、底端0.7mで、底に広い平坦面をもつ。遺物(図6-1～3・5)は、簾状文など弥生時代中期中葉から後葉にかけての特徴を持つ土器片が出土している。その中には畿内Ⅲ様式の広口長頸壷の口縁部(図6-1)とともに、高坏か台付鉢の中実の脚

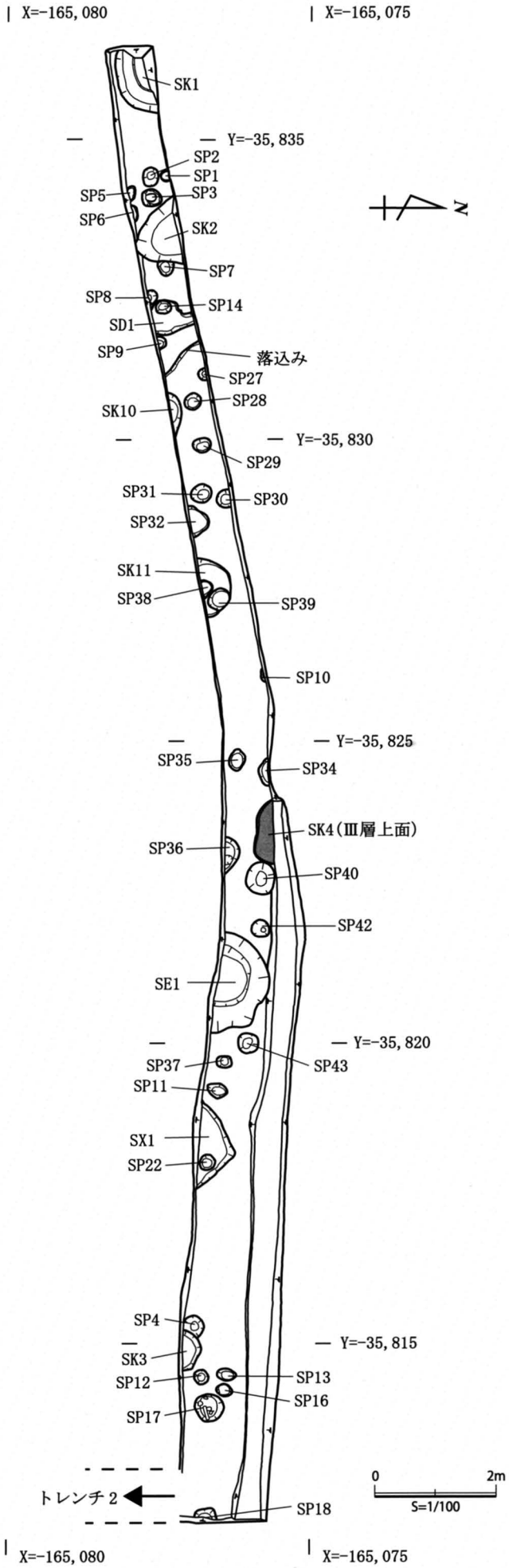

図4　トレンチ1平面図

部が存在する。

SD1　西端より4.2m東に位置し、南北方向に延びる溝である。深さ0.2m、上端の東西長は南側が広がり最大0.7mである。遺物はすべて弥生時代中期の土器である。

SE1　中央からやや東よりに位置する素掘りの井戸である。漏斗状をしており、上端の直径1.8m、垂直部は直径1.0mの円形である。遺物は弥生土器や須恵器が主であるが、瓦器碗の細片が混在しているため、最終廃絶時期は中世前期以降である。

トレンチ2(図5・6)

SK5　トレンチの中央部で検出された土坑である。上端の南北長は1.4mである。北側に向かって下降しており、北端で深さ0.3mとなる。埋土には被熱され変色した砂岩が複数含まれている。遺構の底に5cmほどの黄色粘質土層が存在するが、ブロック状であるため貼床ではない。遺物(図6-4・6・7・10)は弥生時代中期の特徴を持つ。縦型流水文の長頸壷の肩部、簾状文の鉢の口縁部（図6-6)、ヘラ描き沈線紋の高坏(図6-7)などから、その中でも中期後葉の遺構と考えられる。

SD3　中央部からやや北より、上端の南北長0.6m、深さ0.5mの東西方向に延びる溝である。遺物はすべて弥生時代中期に属す。

写真1　トレンチ1西半完掘状況（西から）

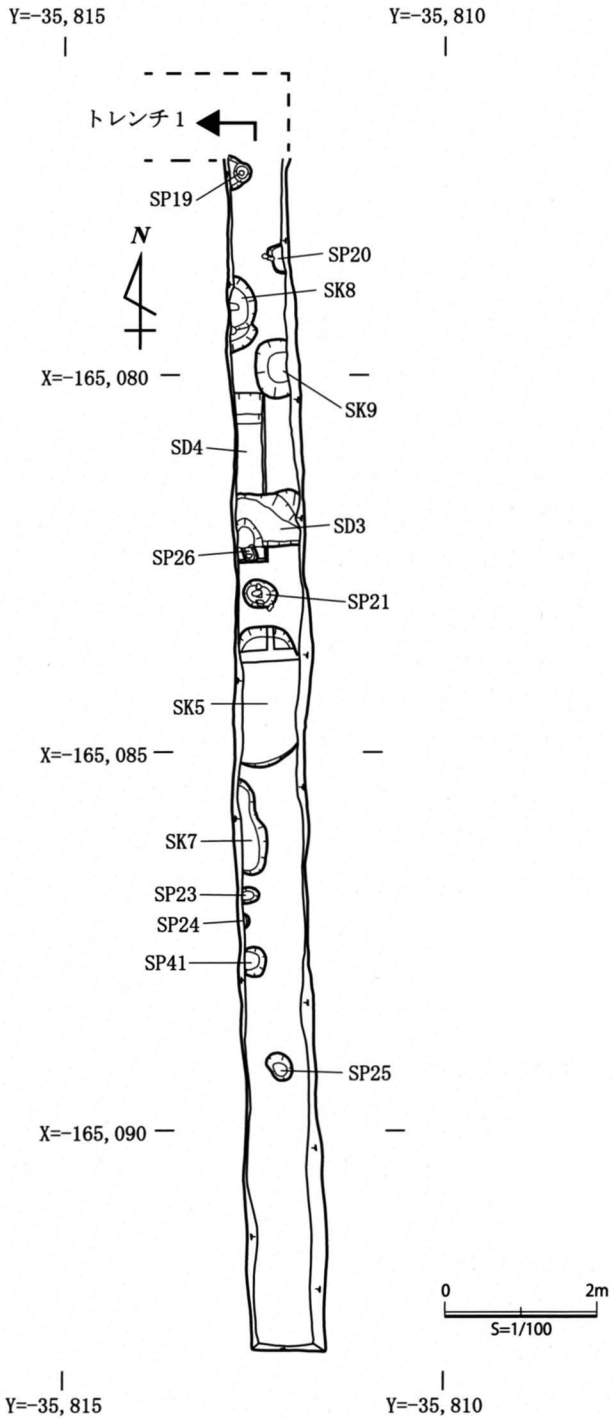

図5　トレンチ2平面図

表面採集遺物・包含層出土(図6)

調査前の表面採集において、被熱により破損した大型打製石器(図6-8)が見つかっている。裏面が変色し、下側の破断面に被熱により内面から割れた痕跡が残っている。また、Ⅱ層において大型打製石器の製作途中品が出土しており、大型打製石器の作成中に生じたポイントフレーク(図6-9) が出土している。過去の報告書にも述べられているように、中野遺跡では二上山産サヌカイトを用いて石器の製作が行われている。大型打製石器やポイントフレークの出土によって、弥生時代中

期に中野遺跡で大型打製石器の製作が行われてことがうかがえる。

また、中世包含層から出土した瓦片の中に新堂廃寺所用瓦と同様の特徴をもつものが1点存在した。狭山河南線の調査や今回調査地東側で実施した2010年調査でも、新堂廃寺所用瓦が出土している。

4. まとめ

弥生時代中期を中心に多数の遺構を検出したが、擁壁予定地で調査であり調査区の幅が狭かったため、中野遺跡のごく一部が明らかになったにすぎない。一方で遺物については、過去調査による成果を再確認することができた。

なお、本調査は林　正樹が担当し、補助員として山口　陽子、大澤　嶺（立命館大学）の参加を得た。

最後になりますが、快く調査に協力していただいた関係者の皆さまに感謝を申し上げます。

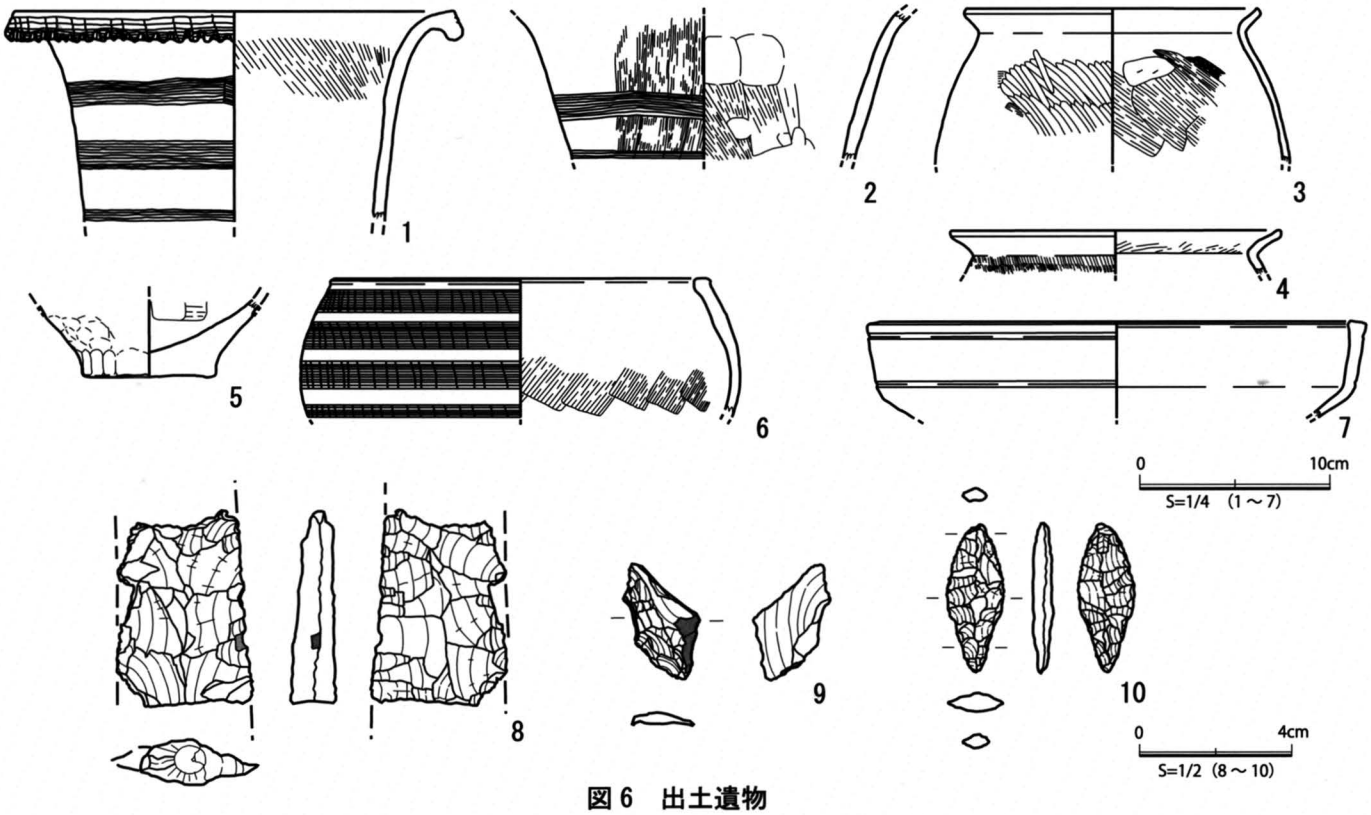

図6　出土遺物

報告書抄録

ふりがな	なかのいせき
書名	中野遺跡
副書名	共同住宅の建設に伴う発掘調査報告(NN2015-1)
シリーズ名	富田林市文化財調査報告書
シリーズ番号	58
編著者名	林 正樹
編集機関	富田林市教育委員会
所在地	〒584-8511　大阪府富田林市常盤町1番1号　TEL　0721-25-1000(代)
発行年月日	2016（平成28）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積発掘 (㎡)	発掘原因
なかのいせき 中野遺跡	とんだばやししなかのちょうにちょうめ 富田林市中野町二丁目	27214	16	34° 30′ 36″	135° 30′ 40″	20150630 ～ 20150724	32	共同住宅の建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中野遺跡	集落跡	弥生時代	土坑、溝、ピット	弥生土器、石器、須恵器	

印　刷：明朗社